

公開セミナー『日米の大学における寄附講座～事例に学ぶ～』 開催報告

日時: 2007 年 4 月 23 日 月曜日 18 時 30 分から 20 時

会場: ジャパンファウンデーション 国際会議場

共催: 国際交流基金日米センター、東京アメリカンセンター

来場者: 約 90 名

登壇者: 講演 1 デイビッド・アッカー氏(アイオワ州立大学 アカデミック&グローバル・プログラム 副学部長 農業教育・研究科 教授)

講演 2 深尾 光洋 氏(慶應義塾大学商学部教授、みずほフィナンシャルグループ寄附講座コーディネーター)

モデレーター 太田 浩 氏(一橋大学国際戦略本部 准教授)



左から、太田浩氏、深尾光洋氏、デイビッド・アッカー氏

【概要】

CGP からの挨拶に続き、モデレーターの太田氏が日本の大学を取り巻く資金配分の現状を概説されました。2002 年以降、大学間の資金獲得が競争的になっている現状を説明し、結果として、旧帝国大学と一部の私立大学に資金が集中していることも説明し、議論の基盤となる共通認識を提供しました。

続いて基調講演/米側事例としてアッカー氏がアイオワ州立大の財政状況を米国における大学の資金調達の現状を交えながら分かりやすく講演されました。特に同大学では州政府による資金提供が減少した結果、様々な手段を用いて外部資金獲得を行なっている例が紹介されました。

さらに深尾氏からは慶應義塾大学における個別の寄附講座の事例が紹介され、商学部の学生教育の

手段として企業との連携が非常に有益で、学生から高い関心を集め、出席率も高いことが紹介されました。

最後に会場との質疑応答が 30 分程度行なわれました。会場からは、「日本の大学は政府資金に頼りすぎなので民間・個人からの資金調達をするべきではないか」、「『企業の大学』になるには学内のカルチャーをいかに変えられるのか」、「寄附を得にくい一般教養の資金はどうするべきか」といった質問が寄せられ、活発な意見交換となりました。

東京アメリカンセンターからの挨拶をもって、閉会となりました。

【まとめ】

来場者アンケート(62 枚回収。回収率 69%)では、満足度を尋ねる項目では「大変満足」(17 件)と「満足」(39 件)を合わせると 90%の来場者から、満足という評価を得ることができました。

参加理由としては、「大学経営全般に関心があるため」が最も多く 30 件、次いで「大学における外部資金獲得に関心があるため」(26 件)、「所属する企業/大学にて産学連携を既に行なっているから」(17 件)、「米国の情報全般に関心があるため」(10 件)、などとなりました。

来場者の構成も「会社役員・社員」(22 人)、大学職員(20 人)などとなっており、産学連携に直接関わる現場の方々に多数お越しいただけたようです。

以上



会場の様子